

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、多彩な人材を輩出しています。

今回は、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与の上治丈太郎さんに、お話を伺いました。

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与

う え じ じ ょ う た ろ う

上治丈太郎さん

■卓球少年からミズノへ

中学・高校時代は、卓球に打ち込んでいました。中学校は、県大会団体戦で優勝するなど、強かったです。高校3年生の6月、卓球の3府県(兵庫、大阪、京都)大会で大阪に行った時に、引率の先生から、「帰りにミズノに面接に行つてこい」と言われ、その足でミズノに向かいました。

人事課長と面接をし、1週間ほどすると採用通知が届きました。大学進学も考えていたので、先生に相談すると「ミズノは毎年我が校から採用があるから、辞退は困る」と言われ、「まあ、いいか」という感じで入社しました。入社後はスポーツ施設部に配属され、

陸上競技場や野球場の建設に関わりました。その後、建築関係の知識が必要と考え、早稲田大学(2部(夜間))を受験し、入学しました。ゼミの先生に紹介いただいた集まりでは、西田修平さんや織田幹雄さんからオリンピックメダリストからいろいろ教えてもらいました。

■オリンピックとの出会い

1988年、ソウルオリンピックの年に「ミズノ」ブランドを世界中にプロモーションしていく部署が新設され、水野正人社長の時に統括リーダーを拝命しました。

今では、トップ選手が履いてる靴が売れるのは一般的ですが、当時は、どうしたら売れるのか研究の毎日でした。そのような中で、トップアスリートとの契約交渉やサポートに取り組んでき

ました。

長野冬季オリンピック(1998年)は、大会の招致から関わったこともあり非常に印象深い大会となりました。長野商工会議所から依頼があり招致活動に取り組みしましたが、当時、長野は全く知名度がなくて、立候補の2年前からパリ・ダカールラリーに「長野号」を出すなど、長野を世界にアピールし続けました。

無事、ミズノは大会スポンサーとなり長野大会に商品やサービスを通じて貢献することができました。

「西武球場」も思い出深い仕事です。西武がプロ野球チームを持つことを公表する前から、水面下で球場の整備を進めていました。メジャーリーグに負けない球場を作ろうと、アメリカに視察に行きました。情報が漏れないよう自治体や関係機関への届出にも細心の注意を払いながら進め、シーズン終了

後に西武がクラウンライターライオンズを買収する発表を行いました。オリンピックとは異なりますが、あの達成感も忘れられません。

■兵庫県ゆかりのアスリート

2012年ロンドンオリンピック、女子柔道78kg超級の銀メダリスト杉本美香さん(伊丹市出身)は強く印象に残っています。一回り大きい外国人選手を相手に真っ向勝負を挑む姿に感動を受けました。また、メダル獲得の後、何度かお祝いの会食をしました。

女子バレーの真鍋監督(姫路市出身)もすごい人でした。バレーの試合は、データを駆使した情報戦です。対戦相手を中心に番号で管理し、試合中に監督はリアルタイムで選手に詳細な指示を出します。2012年のロンドンオリンピックで、真鍋監督から「選手の





2004年アテネ五輪聖火リレー

〈プロフィール〉

1947年生まれ。香美町香住区出身。県立豊岡実業高校（現豊岡総合高校）卒業後、1965年ミズノ(株)入社。2011年同社取締役副社長、2013年同社相談役を経て2015年同社退社。現在、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与、(公財)日本オリンピック委員会国際人養成アカデミースクールマスター、(公社)日本ウエイトリフティング協会副会長、国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会委員等の役職を務める。

背番号を全部変えてくれ」と指示がありました。相手チームは日本人選手を背番号でデータ管理していたので大混乱でした。それほど勝利への執念がすごく、やれることは全てやる人でした。真鍋さんだからこそ、見事オリンピックで28年ぶりとなる銅メダルが獲得できたのでしよう。

■スポーツが震災復興の力に

1995年、阪神・淡路大震災の年に「がんばろうKOBÉ」を合言葉に優勝したオリックス・ブルーウェーブ。東日本大震災の年に女子サッカーW杯優勝という快挙を成し遂げたなど、シヤパン。その2年後の2013年には仙台市に本拠地を置く楽天イーグルスの優勝。

また、昨年のW杯ラグビー大会においては、岩手県釜石市で多くの人々が感動と勇気もらい、被災地の復興の

力となりました。

その他にも様々なシーンが思い出されますが、被災者の皆さんを想い一丸となって戦う選手の姿に、多くの人が勇気づけられました。

■鬼塚喜八郎さんの思い出

鬼塚さんとは同じ山陰地域の出身ということもあり、大変懇意にしていたできました。「山陰の会」と称し、よく食事も一緒にしました。会社（アシックス/ミズノ）の分け隔てなく、イチロー選手の内緒話など、本当になんでも話される方でした。鬼塚さんの声はとても大きくて、実際には内緒話は一切できませんでしたけどね。「豪放磊落」という言葉がぴったりの人でした。移動中の新幹線では、いつも読書や書き物をされており、非常に熱心な勉強家でもありました。

■2020年東京オリンピックの

注目点

オリンピックは単なるスポーツイベントではなく、世界中で起こっている異常気象や環境問題など様々な課題にチャレンジする大会でもあります。聖火リレーでは、排気ガスのない炎や東北被災3県の仮設プレハブ住宅のアルミフレームを用いたトーチを使います。オリンピックの競技施設や選手村はもとより、交通インフラ等を整備する中で、環境やエネルギーだけでなく、高齢化、交通便利性、防災・安全などの様々な課題を解決する必要があります。日本の優れた最先端のテクノロジーを使った対応ができれば、世界への絶好のアピールにもなります。

「オリンピック・レガシー」とは、オリンピックによって長期的・持続的に及ぶ効果ですが、施設だけを指すのではなく、様々な課題解決も含めた環境、経済、文化など、幅広い分野に及びます。そういう視点で、質の高い「オリンピック・レガシー」にも注目してほしいと思います。

■故郷への思いが仕事の支えに

仕事で海外にいる時や行き詰まった時、ふと、円山川のゆったりとした流れや香住のきれいな海を思い出し、「自分がやっていることは間違っていないだろうか。無茶してないだろうか。調子に乗り過ぎていないか」など冷静に自分を見つめ直す機会になっています。

謙虚な心と、山陰特有の天候の厳しさゆえに鍛えられた根気強さ。但馬・香美町で育まれた精神が、世界を相手にこれまでやってこられた支えになっていると信じています。

東京に数十年住んでいると兵庫＝神戸というイメージが根強くあります。兵庫は五国。東西南北春夏秋冬、様々な魅力が兵庫にはある。そのことを県人会はじめ兵庫県出身者がもっと発信してほしいと思います。

2020年の聖火リレーは、5月24日、25日に兵庫県を駆け抜けます。世界遺産姫路城を含む県内の名所をめぐるコースが設定されています。兵庫県の魅力を国内外へ広く発信する機会として是非活用してください。

個人が取り組み、交流することで、「点」が「線」そして「面」となり、大きな影響をもたらすことができる。結果として、それがふるさと兵庫への恩返しになると思います。

今、日本オリンピック委員会（JOC）国際人養成アカデミーのスクールマスターとして、国際舞台で活躍できる人材の育成にも関わっています。世界との交流の窓口である神戸港を有する兵庫県から、もっともっと多くの方に世界に羽ばたいてもらいたいと願っています。

上治さんからいただいたオリンピック関連グッズを3名様にプレゼントします。

詳しくは51ページをご覧ください。